

次に、4番山口等議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問を始めさせていただきます。

今回は2項目の質問を予定しております。まず最初に防災・減災についてでございます。2つ目に教育についてであります。

皆さん御存じのとおり、先月の8月の20日未明のことです。広島県で短時間による甚大な土砂災害が発生いたしました。広島市の安佐北区では1時間雨量が120ミリ以上、また数時間で250ミリ以上という豪雨があったそうでございます。これも早朝3時、4時の出来事でございます。この災害で70名以上の方がお亡くなりになり、また行方不明の方が今だけかかっておられます。また警察、消防、自衛隊による必死の搜索活動も今なお行われております。この場をおかりしまして災害に遭われた方に心よりお見舞いを申し上げます。

では質問に入らせていただきます。まず始めにその防災、減災であります。

今回被害がひどかった広島県の安佐北区において、県が指定した土砂災害区域であったようでございます。

そこで質問ですが、この武雄市も周囲が山に囲まれておりますが、県が指定している土砂災害危険区域はどのくらいあるのか。危険箇所には土石流、地すべり、また急傾斜等のいろんな種類があるかと思えます。この種類別にどれくらいあるのか、まず始めにお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターお願いします。武雄市における土砂災害危険区域はどのくらいあるかということですが、土砂災害につきましては大きく3種類ありまして、1つはここに今モニターで表示してありますが、山腹が崩壊してですね、土砂が下流のほうに流れてくるというふうな土砂渓流区域につきましては、市内に409カ所あります。

続きまして土地の一部が地下水等によって崩壊している、地すべりを起こす、地すべり危険箇所につきましては、市内に27カ所あります。次に崖地の傾斜が30度以上で、土地が崩壊する急傾斜地崩壊危険箇所につきましては、市内に1,105カ所が指定されておるところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

はい、土石流の危険箇所が409カ所。地すべり箇所がですね、危険箇所が27、それで急傾

斜が1,000カ所以上ということで、合計約1,500カ所ぐらいですね、この武雄市にあるわけなんですけど、まずこの危険箇所をですね、地域住民の方にまず知っていただく。危険であるという意識をですねまず、持っていただく、このことが一番重要じゃないかと思います。そういったことで意識づけが一番だと思うんですけども、このようなことを、そのようなソフト面のことで、どのようなことを取り組まれているのか、まずそのあたりをお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

水防法に基づきます洪水予報河川、あるいは水位周知河川であります、六角川、松浦川のハザードマップにつきましては、平成22年に作成をいたしまして、各家庭に配布をいたしているところでございます。

さきほどの土砂災害関係でありますけども、県のほうで今マップが作成をされている途中でありまして、来月あたりになりましたらこちらのほうにいただけますので、その分については各家庭に配布をいたしまして、自分の家あたりがどういう状況にあるのかという件につきましては、ご確認をいただきたいというふうに思っております。

住民の防災意識の関係でありますけれども、行政区ごとに自主防災組織の組織化をお願いをいたしております。すでに設置をしてある行政区につきましては、年に1回程度の避難訓練を実施していただくということを、区長会等を通じてお願いをしているところでございます。

そういった自主防災組織の設置を踏まえまして、お互いの連絡体制とかそういう会議の中で防災マップ、より身近なところの防災マップをつくっていただくというふうなことで、あるいはより身近な自分たちの区で防災訓練をしていただくというふうなことを通じて、防災意識の向上を図っていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ハザードマップ、防災地図もですね整備されていると思います。またいろんな地区、小さな地区でもですね、地区単位のハザードマップも必要になってくるかと思いますが、そのあたりの整備状況をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターをお願いいたします。

土砂災害警戒区域あるいは特別警戒区域につきましては、県のほうで指定が進んでいるところがございます。法律の規定によりまして県のほうで指定をされまして、市においては行政区ぐらいの単位でより詳しいハザードマップの作成というものが義務づけられております。

画面で紹介しておりますのは、昨年武雄市内においては、武内町がこの指定が完成しておりますしてマップをいただいているところでございますけれども、武内町の各区に出向きまして各区の区長さんあるいは役員の方とか消防団、いろんな組織の代表者の方一堂に会しまして、より詳しい自分のところの災害危険場所とか、災害があったときにどこに避難するかといったことを自分たちで話し合いをしていただきましてつくったマップでございます。ちょっと小さくて見にくいんですけども、この中に赤で囲んだ部分がありますけれども、ここが県が指定した特別警戒区域、おおむねその周辺に黄色で、ちょっと見にくいんですけども囲んだところが警戒区域というふうなことであります。

こういうマップを参考にしましてピンクの実線につきましては、ここは避難するのに大丈夫だろうという線あるいはピンクの破線につきましては、ここは冠水の可能性があるということで避難の際は十分に注意する。あるいはほかの道を通るといった、こういうことを各地域の中で話し合っつけていただいている状況であります。

武内町につきましては、県の指定も終わりましたので、作成済みでありますので雨期前に、ことしの雨期前に全家庭に配布をいたしたところでございます。

他の町につきましては、県の指定の作業が終わり次第、順次そういった作業を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

このようにですね、整備されたハザードマップがですね、整備されたとこばっかしではないと思います。

これから先にですねまだ作成を予定されているところもあるかと思うんですけど、よく行政の、市ですね担当部署と打ち合わせされて、地区の方はですねやっぱりこの地元の状況をですね確認されて、避難場所等をですねきちっと確保していただくように、またそのあたりのことよろしくお願いします。

今回の広島ですね災害も短時間でですね、短時間の豪雨による土砂災害がどこにでも今発生するような状況でございます。まあ、よそごとではなくですね身近に起こる災害だと思うんですけどもハード面、土砂災害防止のですね対策はどのようにされておるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

(モニター使用) モニターをお願いします。先ほどちょっと訂正させていただきます。

先ほど地すべりの地区を 27 カ所と申しましたけれども、28 カ所の間違いですので訂正をお願いしたいと思います。土砂災害対策についてはハード面についてですけれども、ハード面についての、まあ土砂対策ですけれども土石流、地すべり、崖崩れ等によって方法は異なってきます。

今モニターにあらわしてありますが、土石流の対策であります。山腹が崩壊してきたのを、溪流に構造物を設置して直接流れをとめる。コンクリートや鋼製によって、堰提をつくってですね、その下流のほうに流路、安全に水を流すための水路をつくるというふうな工事であります。

これが実際に今武雄市内で設置されてる事業です。設置されてる砂防事業であります。

次に地すべり対策ですけれども、地すべりの要因であります地下水を低下させる排水ボーリング等を実施しましてですね、集水井戸をつくって地中から早く水を抜くというふうな工法であります。まあ、地中の岩盤を利用した杭やアンカーで安定をさせるというふうな工法で、地すべり対策事業というふうなことを行っているところです。これも武雄市内で実施しておりますアンカーによる地すべりをとめる工法であります。(発言する者あり)

次に崖崩れ等に対しましては、崩れをとめるためにコンクリートによる擁壁や法面の保護をする法枠工が実施されております。

これも市内で今実施してる急傾斜対策事業というふうなことであります。

以上です。

○議長(杉原豊喜君)

4 番山口等議員

○4 番(山口 等君)〔登壇〕

この身近なところでですね、ちょっと災害等の起こったところの写真なんですけど、これは平成 21 年、もう今から 5 年前です。県道の武雄伊万里線赤穂山トンネルに行く手前の武雄川のところですけど、これがですね 5 年前の 7 月に発生いたしました。それで 100 メーターぐらいがですね、全部滑ってしまって、恐らく通行どめという期間がですね、当分の間続いたわけなんですけど、まあいろんな形でですね、早急にですね、対応していただきまして、片側通行または全面通行が通るようになりました。これはあの、先ほど吉川議員のほうからも言われてますけど、県道武雄福富線の土砂崩壊したときの 8 月 6 日の写真でございます。

現在が片側通行ということですね、対応をされとります。その中でですね私が 2 年ほど前でしょうか、柏岳の砂防の事業の質問をさせていただきました。ここは非常にその後、集落等もですね、非常にふえまして、非常に危険性も高いような状況でございます。その現状がどのようになっているのか、またその後の計画はですねどのように進んでいるのかお尋ね

いたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

（モニター使用）柏岳の山ノ上砂防事業ですけども、場所的には旧市民病院の裏のほうの、柏岳の山腹の溪流のですね、土砂災害を防止するというふうなことで現在佐賀県にて調査、測量等が行われておりまして、来年いっぱい、来年の1月いっぱいかかる見込みとなっております。

その後計画に対する地元説明会を経てですね、平成27年には、用地買収と工事用道路を施行する予定となっております。本体の工事につきましては、28年度から本体の工事に入るというふうなことであります。何せ地元の協力が重要かと思っておりますので、よろしく願いをしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

この柏岳というのは今言われたようにですね、施設ですね。介護施設等がすぐ下のほうにあるんですけど、その下のほうにもですね、かなりの集落、川良区と朝日町の甘久区もですね、一部その範囲に入るとるようでございます。これがちょっと雨がひどいときですね状況でございますけど、これは甘久区のほうから見たところでございます。そういったことで今言われたように27年度にはですね用地交渉をして、できれば工事用道路をつくっていきたいと、本当にありがとうございます。ぜひですね地元としてもですね協力をしていきたいと思っておりますので、1日でも早いですね早期着工を願っております。

それで3年半前ですか東日本大震災、また一昨年前のですね7月に九州北部災害、豪雨でですね、このときも武雄市としてボランティア活動を行ってまいりましたが、今回の広島土砂災害におきまして武雄市としてボランティア活動の予定はされておるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

今回の災害について現時点では武雄市としてのボランティアの派遣の予定はございません。陸前高田市それから熊本への派遣につきましては、まあ市長との交流があったということがありまして、1つの場所に集中してボランティアをさせていただいたという背景がございます。また今回の広島の状況を情報を集めてみますと、一定のボランティアの制限をされていると。県内だけに限った制限をされているといったような情報もございまして、現時点

では派遣の計画はないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今のところは、そのボランティアの計画はないということです。今回のようなですね広島災害のゲリラ的豪雨の災害は、いつ本当にどこでもですね発生するような状況でございます。ハード面の設備がですねどうしても追いつかないというふうなことございますので、これを期にですね、皆さんの防災に対する意識をですね十分持っていただいでですね、よかったらもう各家庭でもですね、要するに防災についての話し合い等もしていただいで、こういうふうな防災の意識づけをですね十分にしてほしいと思います。

次なんですけど、昨日ですね9月7日に武雄市ですね、総合防災訓練が実施されました。私も見に行きましたけども、今回どういった点に重点を置いてですね訓練を実施されたのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

昨日、武雄市総合防災訓練を実施をいたしました。今回は武雄区、花島区、永島区、溝ノ上区の住民の方を中心に御参加いただきまして、住民の数が約350名。それから消防団約100名、その他陸上自衛隊の御協力とか、市役所等含めまして、全体で約550名の参加を得て、実施をしたところでございます。関係者の皆さんに厚く御礼を申し上げたいと思います。

今回重点を置きました点につきましては、大きく3点。1つは災害対策本部を設置をいたしまして、災害情報の収集から避難勧告等の発令までの手順の確認。職員の迅速な参集とか自衛隊、警察、消防機関との連携の確認といったものを行いました。2つ目には一番大事になるかと思いますが住民の避難訓練でございます。

特に高齢者などの支援を要する方の避難の支援と。それから消防団によります避難誘導といった点でございます。3つ目でございますけどもなかなか多くの方が一堂に会するという機会、そういう場をつくるのがなかなか難しいこともありまして、この機会を捉えまして非常食の炊き出しとか消火器を使った消火訓練、あるいはAEDの訓練そういったものを同時に行ったところでございます。そういうことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

私もですね、きのう花島公民館前の避難訓練の状況をちょっと確認してまいりました。今言われた避難訓練、一番本当に大事だと思います。危険と感じたときはやっぱり早く逃げる

こと、これがもう一番だと思しますので、これから先もですねこのような訓練を続けていただいて、一人ひとりの、市民一人ひとりのですね、意識を深めていくように、続けてほしいと思います。これは御船が丘小学校でですね、自衛隊の方がいろんな説明をされているところの状態です。

次の質問に移らせていただきます。

教育についてでございます。武雄市はですね、これから取り組もうとしている官民一体型教育をですね、4年ほど前から武雄市に先駆けてですね、取り組んでいる学校があります。長野県の北相木村という小学校なんですけどもここにですね、7月に総務文教常任委員会としてですね視察をさせていただきました。この長野県北相木村というところはですね世帯数が360戸、人口が約820人ぐらい。で、標高的に900メートルぐらいの山村でございます。北相木小学校はですね、児童数が43名。

そのうちですね、山村留学の児童が14名ということで、留学率が30%以上というような学校でございます。

そこでちょっと視察をさせていただきましたけども、この写真はですねこれからの写真は北相木小学校の許可をいただいてですね、公表するってことにしております。で、これは、花まる授業の様子でございます。1年生から3年生が1クラスになってですね、4人ぐらいのグループをつかって授業をしているわけなんですけど。まずこれはですね、アイキューブとってですね、木製のブロックを使いながらですね実際の操作実験をとおして、脳のイメージだけでピースをつかって、裏から見た状態の図形を想像するとか、空間的なですね能力、認識能力を伸ばす授業だそうでございます。もうほとんど1年生から3年生まで仲良くですね授業をしておりました。このシーンなんですけども、これは授業の途中でですねよくできたり早くできたり、そういった状況のところですね先生方がこう褒める、そういう仕草をですねされているところです。

子どもたちもですね大きな声を張り上げてですね、一生懸命取り組んでいたところでございます。この左から2人の先生方はですね、北相木小学校の教員の方なんですけど、私、ちょっと見たときはですね、花まるの方が指導されとるんじゃないかなというぐらいにですね本当にもう没頭されてですね、子どもたちと一緒に授業に取り組んでおられました。

はい。黒板の前に立っておられる方はですね新任の先生らしいです。それでちょうど私たちが授業に行ったときがですね、花まるのデビューと言いますか、花まる授業を初めてやるというふうな先生でしたけど、まあ子どもたちと一緒にですね、ちょっと緊張はされてましたけど、非常にいい雰囲気ですね、授業をされておりました。これはですね図面を一瞬見せてですね思考力を確かめる、パターンメーカーというふうな教材らしいです。これは平面的図形ですね認識能力を訓練する授業だそうなんですけど、ほとんどの子どもたちがですね、本当に一瞬だけこう見せてですねすぐ直されるんですけど、それをですね思い出して

子どもたちが4枚の図面を組み合わせ、どんな形だったかというところをですね勉強されておりました。カードを組み合わせ、図形化する授業です。

そこでこれからの教育についてですね、武雄市はいろんなことでこれから取り組むわけなんですけども、市長はですね教育に命をかけるということをおっしゃられます。これからの教育についてですねどのような考えでおられるのか、市長と教育長にお伺いしたいと思います。

まず教育長をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

花まる学習会については直接のコメントを控えたいと思いますが、3点ほど申し上げたいと思います。

1つは現在進めておりますICT教育とか外国語教育など、これからの子どもたちに必要な力をいかにしてつけていくかと。これは今進めておりますことも、文部科学省でも県教育委員会でも方策として探っておられることでありますので、そこはこれからも力を入れていきたいというふうに思います。2つ目としましてはやっぱり、登校を渋っておられる子どもさん、それから不登校傾向の子どもさん、実際武雄市もおられるわけでありまして。

花まる学習会で言っておられる、メシが食える、自立した人間にいかにして育てるかということは保護者の方、家族の方、あるいは市民の皆さん共通の願いでもあります。そういう意味で、今各地で説明会等におきまして、そういう環境づくりについてお願いをしているところがございます。それから3つ目としまして、今、今後、教育委員会制度等も変わっていくわけでありまして、現在多くの、代田教育監を始めですね多くの方々武雄市の教育に支援をいただいております。広い意味では官民連携というような方策というのが、最も進行できてるんじゃないかというふうにも思うわけです。

そういう中で市長がこれまでも発言されてますように、中立性であったり継続性、十分配慮した上で、また我々と連携した形で、教育の改革がこのように進められるということは、自慢して言いますと、ほかの市、町でどうしても、うまく進めかねない大きな改革ができるということではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄市のみならず、今までの、全国のねオールジャパンの教育っていうのが、もう後手後手だったんじゃないかな。なんか問題が起きたら、対処療法的に、対応せんばいかん、いじめの問題がそうでしたよね。あるいは自殺の問題もそうですよね。そうならないようにす

るためには、やっぱ後手後手じゃなくて、先手先手じゃなきゃダメだと、いうのはこれ教育のみならず、あらゆる、なんちゅうんですかね、社会的なおかれてるね課題については、僕はそうあるべきだと思ってるんですね。

そういう意味で、佐賀新聞がこうやって、別に僕は思惑なんかありませんから、武雄発の学びの改革という3回連続でシリーズ、これは力作です、これはぜひ読んでほしいし、もちろん僕との見解が大きくずれてる部分は当然ありますけれども、これはこれですごく読み応えが、現状をね分析するという意味では今、武雄市の教育行政に対するね、中ではこれはもう最高のものだと思っています。その中で、この中にも書いてありますけれども、そのもう私自身は、三本の矢を放ちました。もう、これ以上矢は放ちません。放つかもしれません。ですが今のところ放つつもりはないんですが、その中でね、これからの舞台というのは教育委員会なんですよ。今浦郷教育長は、私が知る限りね、日本でも最高の教育長だと思っています。褒めすぎですかね。(笑い声)

ですので、そういう中でね、具体的な方針は教育委員会が中心となって、学校の現場の先生とね、あるいは児童生徒とよく顔の見えるね関係を築いてほしいなということ考えてますし、今、文部科学省自身がね大臣を中心として、ものすごく今武雄市の教育に注目をされていますので、そういう意味では国全体がね、今武雄市が取り組む前人未踏の領域に大きくやっぱり期待をされているというふうなことを思っていますので、そういう意味で国、県、市一体となって、これから本当にいい教育をね、ぜひしていきたいと思っております。

長くなりましたけど、私自身が小学校のとき不登校、保育園中退ですので、もう二度と僕のような人間は出さないということ。だから早く日曜日にならないかなって、皆さん思ってたでしょ、早く日曜日にならんかね、ね豊村議員さん。そうじゃなくて、早くやっぱ月曜日にならないかなというワクワク、ドキドキするようなその小学校、特に小学校をつくりたいと思っていますので、そういう意味で言うと官民一体型学校もタブレットもありとあらゆる政策はその手段でありますので、手段がこう目的にならないようにね、していく必要があるだろうと思っていますし、最終的にはメシが食える魅力的な大人になるように、これは小学校の低学年の教育が最大の私は肝だと思っていますので、よく家庭とも地域とも、連携をとりながら、学校の先生に過度の負担がかからないようにね、私たち自身も、きちんと見守っていく必要があると思うし、いま浦郷教育行政が進む方向を、しっかり後押しをしていきたいなと思っています。そういう意味ではもう私の役割はもう、そういう意味では終わったというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

先ほどもですね、ちょっと話がでてましたけど、官民一体型の学校づくり、地域協議会が

ですね、今、各地で設立をされております。教育委員会としてですね、いろんな説明会等もされておりますけども、私も何回となく出席をさせていただきました。そんな中でですね、保護者の方ですね出席者というか、参加者がですね、非常に少ないような気がいたします。各地区においてもですね、区長さん等はですね、いろんな機会があるごとにですね、こういう協議会がありますのでぜひ参加してくださいという呼びかけは十分されたと思います。

それにしてもですね、何でこういう状況なのか、あと2カ月足らずでですね申請するところは手を挙げていただくというふうな状況でございます。そういった中で、この状況をどのように思われているのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね少ないのはもう仕方ないと思いますよ。やっぱりね、まああの一部の地区では多いところもあるんですが、一般的に言ってやっぱり少ないっていうのは、仕方のないことだなというのは思ってるんです。ていうのはね、やっぱりこう人はもう見えるものでしか判断できないですもん。

ですのでこれ恐らくね、私は、これはもう議会の皆さんたちにも申し上げましたし、私が集会のところでも申し上げましたけれども、来年度からは2校、2校、原則2校でスタートさせるということ、その中で私自身は、じゃあその2校を選考したからといって、まあ3校なるかもしれませんけどね、なるかもしれませんが、その中でね、期待してるのは、契約期間の10年間、じゃあそれ以外の小学校はその対象にならないかっていったらそれはそんなことなく、恐らくね、その選考するA小学校、B小学校、まあC小学校になるかもしれませんが、そのあり方をみて、じゃあ手を挙げようっていうふうに、そうなってくると必ずメディアも報じますし、市民の皆さんたち、特に保護者の皆さんたちは、関心は倍加すると思っておりますので、そう危惧はしてません。我々は少なくともきめの細かい説明会はぜひしてこうと、いうことを思っていますので、ぜひ議員さんにおかれてもね、市政報告会を最近、浦議員さんのところに私は参りましたけれども、やっぱりその浦議員さんの市政報告会の中でもね、この官民一体型学校ていうのはものすごくやっぱり注目されてるんですよ。だからそういう議員さんが市政報告会、あるいは県政報告会をしていただく中でね、私たちも精一杯ね、その場で説明の機会、まあそれ私も参りますので、その場で説明をしていきたいと。

それとあと、PTAであったり、あるいは地域のまあ、いろんな集まりであったり、ていうので、呼んでくだされば、我々はぜひ、参りたいと思っていますのでぜひそういう意味では数が少なくてもね、回を重ねるごとによって、お一人でも多くの保護者を中心とする地域の皆さんたちがこの官民一体型学校についての構想についてね、触れていただく機会を積極的に設けたいなということを考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

説明会には、教育長が説明をよくされてますけど、教育長のほうから、どういうお考えなのかをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

まず、議員の皆様、それから区長様方にですね本当に感謝を申し上げたいと思います。

ほとんどのところでですね、なぜ区長がしなければいけないのかというような思い、声もお聞きしました。しかし、今ただいま申しましたように、この官民一体型学校づくりを考える機会として、本当に我が町の学校、子どもたちのことを改めて強く考えてもらってるということ、もうそれだけでも本当に素晴らしい教育環境づくりになっているということ、実感を感じております。現在40回ほど出向かせていただきまして、2,000名以上の市民の方と一緒に話し合っていたと思っておりますけれども、特別、保護者の方が少なかったという思いはございませんけれども、ただ、実際に、それぞれの学校で、またご希望等もあれば、これからもですね出向いていきたいというふうに思いますし、これから10年、20年のその各校区の教育体制づくりの根幹になることだという決意でいきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

この武雄市はですね、今年度からお住もう課という部署をですね新しく設置されました。恐らく、移住定住の促進にもですね進められてることだと思うんですけど、これから始まる官民一体型教育でですね、移住といいますか、県外から、県外から移住してですね、官民一体型教育を受けようとした場合ですね、その学校区に移住しないといけないのか、そのあたりどうなのかですね、またほかの学校からの通学も可能なのか、そのあたりをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはちょっと、極めて重要な話ですので、私のほうから答弁をいたします。

原則は、例えば、例えばですよ、例を出していいのどうかかわかんないんですけど、若木小学校が指定校になったとするじゃないですか、官民一体型学校の指定校になったとする。

若木小学校が指定になったときに、原則は、若木小学校が校区になりますので、校区内通学というのは大原則になります。

しかしながら、では若木小学校がそういったお住まいがあるのかといったことについて、なかなかそれは、空き家も含めてね、来年の4月からという、かなりもう、スピードになってきますので、そういう意味で、ちょっとここは柔軟に認めようと思っています。

ですので、例えば朝日町であったり、今、朝日町は、どんどんアパートがふえていますので、朝日町だったり、例えば武雄町だったり、一定、隣接するところでの校区外通学というのは、一定期間、これは多分1年になろうかと思えますけれども、ここは柔軟に認める必要があるだろうと思っておりますし、ちょっと若木小学校だけ出して恐縮だったんですけど、例えば東川登小学校であったりとか、西川登小学校だったりとか。そういった、その、なかなか住まいのないところですよ。については、そういった武雄町、朝日町から一定期間、まあ私は1年と思っていますけれども、校区内に転居する予定の皆さん方には、そういった機会をぜひ提供する必要があるだろうと思っています。そして、もとよりこれ、財源の問題がありますけれども、どれぐらいちょっと募集に応じていただくかというのは、ちょっと皆目わかりませんので、場合によっては、当該小学校に一定の市営の住宅もつくることも、ぜひこれ、していかなければいけないと思っています。

ただつくったはね、だれも入らないということになると、それは本末転倒ですので、そこはよく我々としても、調査をして、そういったなるべく、その小学校の校区、で、なるべく小学校の近くにね、そういった居が構えられるようになればいいなと思っています。そういった中で、ぜひこれはごらんになっている皆さん方で、土地もお家も提供したいという方がいらっしゃればですね、幅広にここに電話をしていただければありがたいなというふうにしています。

いずれにしても、この件に関しては、学校説明会、指定の学校の説明会を東京等で行うことにもなります。そのときに具体的に住まいについては、こうこうこうだと、いうことを決めなくてははいけませんので、早急に教育委員会を中心として、そういった方向性についても、もう少し、詰めてまいり、かつ、その議会によく相談をしながら、この件についても進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

期限を決めてですね、柔軟に検討していくということでございます。小学校のタブレット授業が始まりましてですね、ことし4カ月ほどが経過いたしました。初めての導入でですね、いろんな戸惑い、トラブル等もあったかと思えます。どのような反響であったのか、また児童の学習に対する変化はどのようなことがあったのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

ことしの4月タブレット導入いたしまして、基本的には、相対的に子どもたちは興味を持って、学習に生かしてもらっております。そういう中で、トラブルですけれども、タブレットのトラブルにつきましては、初期不良あるいは破損そういうことですね、全体3,000台のうちの約3%に当たります、約100台程度ですね、それについてはメーカーのほうに送って、終了したところでございます。

そういうことで、その間、各学校には、予備機を配置をしておりましたけれども、一時的にタブレットが不足するという事態も生じております。ただその不具合の内容がですね、半数以上が初期設定に戻すことによりまして、回復するというような事例が多いものですから、現在は担当課のほうで、そういう形での修理はしておりますので、それ以降は、大きなトラブル等はあっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

授業の内容等につきましてはですね、よくわかったということで、わかった、よくわかったということで94%の子どもたちがですね、アンケートに答えております。

これはもう一回きりとかではなくて、4月から7月までのトータルとしてですね、そういうことでもあります。

また授業が楽しかった児童につきましても89%という結果が出ておまして、これは、当然、学力、意欲だけじゃなくてですね、学力向上につながるものという期待を持っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

いろんな、最初、まごつきというか、トラブル等もですね、あったかと思えます。

次、4月からまた中学校もタブレット授業始まりますので、その経験を十分踏まえてですね、対応してほしいと思います。

今回7月にですね、行政視察に行かせていただきました、長野県の北相木村の話でございますが、このような話をですね、村の役場の方からお伺いいたしました。

山村留学の卒業生の女性がですね、その後、相木村の同級生と結婚して、村一番のおしどり夫婦になったというような喜ばしいお話。

またですね、留学生として、北相木小学校を卒業し、都会の中学に入学したものの、どう

しても村の学校が忘れられずにですね、中学校に編入したというようなお話をですね、村の役場の方からお聞きしました。教育長がいつも言われます、教育は「つ」という年代までがですね、一番大事だと。本当に私もそう思います。

今回ですね、視察に行ったおりにですね、子どもたちの教育がですね、地域づくり、学校づくりにですね、十分なことを強く共感いたしました。これから先もですね、始まる新しい教育ではございますが、より一層ですね、私自身も力を入れてですね、新しい学校づくりに取り組んでいきたいと思えます。

以上をもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、4番山口等議員の質問を終了させていただきます。